素早い判断と行動で復興に向けスタート！
セコム工業株式会社が白石インター工業団地で竣工記念式典

1

1_新本社工場の外観。「セコムブランドここにあり」と、高速道路からでもしっかり見える「ＳＥＣＯＭ」のロゴ
2_完成した新本社工場を見学する関係者たち

2

【新本社工場の概要】

・所在地	福岡深谷字南沖8-1
・工場規模	地上２階
・敷地面積	36,682.59㎡
・建築面積	15,834.16㎡
・延べ床面積	18,975.36㎡
・総事業費	約31億円

防犯・防災関連機器製造のセコム工業株式会社（新開至代表取締役社長）が進めてきた新本社工場が完成し、1月17日、竣工記念式典が行われた。式典には約160人が集まり、新本社工場の完成を祝った。

新開社長は、「従業員が誇りと愛着を持てる夢と希望の施設ができました。白石の地からさらなる成長、さらなる飛躍の一杖を迎えられたことに感謝しています。防犯・防災関連機器の生産機能を集約するとともに食用ハーブを生産し、将来的には画像関連事業などの拡大も図る予定です。売上高を5年後には現在の2倍に当たる約２００億円、従業員も約２７０人から３５０人に増やし、この地から大いに飛躍したい」と抱負を語った。

新本社工場は、「自然と調和した最先端工場」をメインコンセプトとして、「環境」「高品質」「安全」を重視した設計。地中熱利用による空調負荷軽減や雨水の再利用、機器生産をサポートする最先端の試験設備、浸水しにくい床高設定、照明・空調機器の耐震化が取り入れられるなど、生産性を高め、働きがいのある職場環境を備え、従業員が誇りと愛着を持てる施設を目指した。

セコム工業は東日本大震災で本社工場が大きく損壊。天井が崩落するなど大きな被害を受けた。交通の利便性や雇用確保などの面から、白石の地で再起を図り、地域のさらなる飛躍に貢献したいと、白石インター工業団地への新築移転を決め、平成23年6月29日、白石インター工業団地への企業進出第1号として市と立地協定を締結。12月22日に地鎮祭を行い、平成24年1月に工事着工、11月に完成し、12月3日から操業を開始した。

新たな一歩を踏み出したセコム工業。生産された製品が日本はもとより、世界中で愛用され、白石の地から革新的な高付加価値製品が次々と送り出されることが期待される。そして、同社の発展とともに、白石の発展と雇用の創出にも期待がかかる。

セコム工業は、白石の地から震災を乗り越え培った「絆」を武器に、さらなる飛躍を誓う。

Top's Voices

セコム代表取締役社長
前田（まえだ）　修司（しゅうじ）さん

セコム工業は、1977年に設立。そこから育まれてきましたが、東日本大震災で社屋が損壊しました。

平成23年４月８日、新開社長がセコム本社に来て話を聞き、「これはやるしかない」と思い、工業団地に移転新築を行うことを決めました。

セコム工業は、セコムグループの生産部門の中枢工場としてセキュリティー機器の開発・生産を行っています。

今回の新築移転で、東北自動車道・白石ICに直結するなど交通の便が良くなり、機器の物流の面で効率化が図れました。また、環境に配慮した照明や空調設備機器などの採用、高品質の実験設備の完備、生産性の向上など、まさにセコムグループにふさわしい工場となり、今後のさらなる成長につながると確信しています。

最先端の設備環境を持つこの新工場を生産拠点の中枢として、高度化するセコムグループのサービスを実現するとともに、最高品質の安全・安心・快適・便利をお客さまに提供し、新たなスタートを切ったセコム工業が、白石の地から大いなる飛躍を遂げ、復興のシンボルになればと思います。

セコム工業代表取締役社長
新開（しんかい）　至（いたる）さん

震災直後、私たちセコム工業が行動したことは４点でした。まずは、社員と家族の安全確認。２点目は被災地への支援。３点目は途方に暮れている社員を安心させ夢と希望を持たせることでした。４月８日、セコム本社の許可を得て、この地に新社屋を建設することを決めましたが、この震災直後の早期決断が、再開のめどがたっていなかった社員の力となり大きな力になったことは間違いありません。４点目は新築移転するまでの間の操業再開のめどをたてることでした。大変な日々が続きましたが、震災から56日後の５月６日、社員一丸となって取り組み、操業できる段階までこぎ着けました。今は、ただ感謝の気持ちでいっぱいです。

震災後は、４つの拠点に分かれていた事業所のうち、３つの拠点を新本社工場に集約。新本社工場は、「自然と調和した最先端工場」をメインコンセプトとして、「環境」「高品質」「安全」の３つの大きなテーマにより、働く社員がワクワクするような今までにない斬新な工場にしました。

本日の記念式典を一つの節目として村井知事の今年を表す言葉「興起（好機）到来」のごとく、チャンスと思って奮い立ち、白石市の市政運営の基本理念「共汗・共学・共生」に「共栄」という言葉を加えていただくことをお願いし、気持ちを新たに社員一同、より一層の努力を重ねて、この地から大いに飛躍したいと思います。

白石の地で再起を図り、地域のさらなる飛躍に貢献！

白石市長
風間（かざま）　康静（こうじょう）

白石インター工業団地への新築移転は、両社長の即時・即断と、従業員の皆さんの熱意があって成し得ることができたと思っています。復旧から復興へとシフトしている本市にとって、新本社工場の完成をとてもうれしく思っています。これを起爆剤にして、白石市の「共汗・共学・共生」に「共栄」をと、新開社長から指導していただきましたので、「栄える」ことができるためにも、企業間の交流などもしっかりと支えていかなければならないという決意を新たにしました。

この地で新たな製品が開発されて、日本のみならず世界に白石のブランドが広まることを願い、さらなる雇用の確保に期待しています。

宮城県知事
村井（むらい）　嘉浩（よしひろ）さん

私は、富県宮城、「富（と）ませる宮城」を作ることを掲げています。宮城県は、サービス産業中心の建物作りを続けてきました。サービス産業は人口が増え続ければ良いのですが、少子高齢化で人口が減る中ではどうしても頭打ちになってしまい、縮小傾向になってしまいます。そのため、ものづくり産業をしっかりと育てて、一次産業から三次産業までのバランスをとるといった傾向作りをしようと私は考えています。

セコム工業様の本来の仕事はサービス分野ですが、安心・信頼できる機器があって初めて、サービス産業として立派な地位を確立することができると思います。セキュリティーの分野は、今後需要がどんどん右肩上がりに伸びていく分野。約２万点近い部品を使用して製品を作っているので大変だと思いますが、次世代型の機器をどんどん作っていただき、さらに雇用の拡大につながればと思います。